

道徳の時間については、研究と実践が各学校、各地区において進められてきている。各地区の道徳教育研究会における研究発表や実践報告によっても、道徳の時間の指導は、一応計画に従って実施されていることがわかる。

なお、指導の方法・技術・資料等についての研究とくふうの積み重ねが、いっそう具体的に推進されるよう研究会・講習会の実施の充実を期していきたいと考える。

特に、生活指導との関連についてはっきりおさえることが必要になってきておるので、計画の上にも、実施の面においても、それがすっきりしたものになると同時に補充、交流ということが密接に行なわれるようにしていかなければならない。

教科外活動、特別教育活動については改善がなされてきているが、道徳の時間との関連と調整について具体的な研究とくふうが望まれてきている。特に年間を通じての指導時間を確保することについて、いっそうの配慮がなされなければならない状況にある。

学級会、ホームルーム、児童会、生徒会における児童生徒の組織と運営についても、その自主的活動を活発にする必要が認められると同時に、一部においては行きすぎと考えられる面もあるので、児童生徒の実態、実情に応じ、教科外活動・特別教育活動の本来の目的から外れないよう適切な指導をするようにしていきたいものである。

なお、中・高等学校において、施設・設備等の関係から、クラブ活動が軽視されるむきが見られるが、その重要性にかんがみ、そのじゅうぶんな実施をはかるよう配慮し成果を期したい。

生活指導については、児童生徒の実態や学校の実態、地域の状況に応じて、改善が加えられてきていることはよろこばしい。

しかし、問題を率直に話し合い、全教師の協力によって問題の解決をはかることについてはますます強化充実を要する。

各学校間の協力態勢、関係各機関団体との連絡提携については格段の推進がなされ、特に、保護委員会等の校外生活指導組織が充実されて活発な活動が行なわれるようになったことは、35年度における特筆すべきことといえよう。

しかしながら、児童生徒の不良化や非行の問題が増加の一途をたどり、年齢が低下し深刻化してきていることは周知のとおりであるので、今後各方面と力を合わせ道徳教育、生活指導のいっそうの徹底強化をはかっていきたいものである。

d 児童、生徒の学力向上につとめる。

戦後、新教育の実施以来、早くも十数年を経過し、県内各学校における教育の成果は、多とすべきものがある。県教育委員会としては、数年来継続的に重点施策として学力向上の問題をとりあげ、教育の施策のすべてにわたり、たとえば人事の刷新、施設設備の充実等も、帰するところ学力の向上に結びつくように配慮してきた。全国学力検査、高校入試その他の検査および調査の結果からみると、例年、本県児童、生徒の学力については、

決して楽観の許されない状態にあった。しかし、本年度行なわれた文部省全国学力検査（社会科・理科）の結果からみると、前回（社会科・理科については昭和32年度）にくらべ、小・中・高等学校とも、向上のあとが示されている。これは各学校の努力が、しだいにのびてきたものと思われ、喜ばしいことである。なお、資料をしきりにみると、素質的には相当に優れた児童・生徒が少なくないことも認められるのであって、本県の児童・生徒の学力の将来については、明かるい希望をもつことができるわけである。

思うに学力の問題は、児童・生徒自身はもちろん、家庭、学校、地域社会、その他きわめて多岐にして複雑な条件のからみあいによって規正されているものである。学力を向上させるためには、これらの諸条件の一つ一つについての的確な改善策を考えると同時に、総合的、関連的な立場からの検討が必要であり、そこにこそ根本的な改善策が見出されるものと思われる。

われわれは、このような対策の実施を目標とすることはいうまでもないが、なかでも直接指導にあたる教師の研修により、指導技術の向上をはかり、毎日の授業そのものを充実させることに、特に重点をおかなければならない。その意味で、本年度は各種の研修行事の効率的な開催や研修図書刊行等にも力を尽くしてきたいである。

近年における文化や科学、産業などの急速な発展は、まことにめざましいものがあり、学校教育もこれに即応するため、小・中・高等学校の学習指導要領が改訂されそれぞれ昭和34年度、37年度、38年度から全面的に実施されることになった。これに即応するため、本年度は教育課程の移行措置について指導するとともに、趣旨徹底の研究協議会を実施した。

なお、新指導学習要領によれば、学力は、質的にも量的にも、画期的な水準の向上が要請されてきている。この点について県教育委員会は、各学校の教育課程の改訂と、その実施に必要な設備の充実について指導し、また工業関係高等学校の増設計画や、昭和38年度からの生徒増に応ずる高等学校増設計画をすすめてきた。明昭和38年度は、その実現について、いっそう努力したい念願である。

e 青年・成人の研修の機会拡充につとめる。

この努力目標を達成するために昭和35年度は県・市町村一体となって講座、学級、研究会等を開いて機会の拡充につとめるとともに、自主的団体の育成援助を強化することに意を用いた。

具体的には、青年学級の運営改善をはかり一部に不振を叫ばれている学級を強化する目的をもって青年振興対策協議会を設置し、各方面から現状を分析してこれが振興策を講じているが、今後に残されている問題も多い。

青年団国内研修旅行は第2年度目を迎え、昨年度の反省をもとにして、本年度はじめての試みである婦人国内研修旅行とともに、各地域の学習活動の中心となる指導者の養成を目的として大きな成果を納めた。

さらに実験青年学級、婦人学級、文部省委嘱の婦人学